

鰹節かおる、鰹のまち

－ 本枯れ節を継承するためのいで小屋と地域の交流の場－

A town of bonito, dried bonito fragrance smells

有馬 駿 ARIMA Shun

2014 年入学 | 環境設計学科 Department of Environmental Design

分類：卒業設計
作品/論文：作品
制作年度：2018年
課題概要：模型



図1 全体俯瞰の模型写真



図 2 使われ方の様子

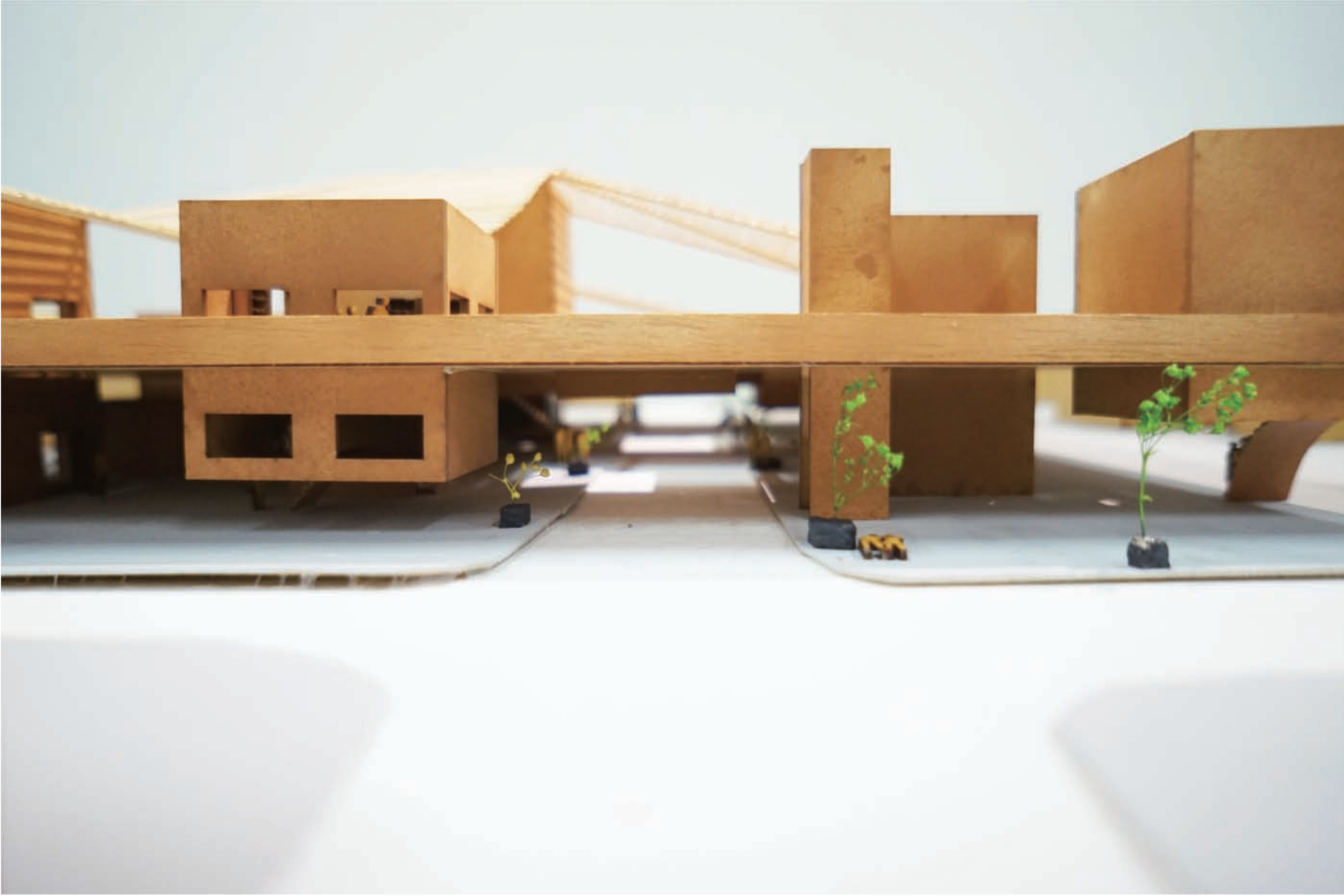


図 3 使われ方の様子 2

現在、行われているような産業の意向の保存は、景観のみの表層的な保存になりがちである。

今回、枕崎の町において産業の存在によって築かれた町の生活を基礎として、町を取り巻く環境に対する応答を提示することで町の生活の構造を生きた形で継続させていくことを目的とした。枕崎市は鰹節の全国生産量 4 割を占める「鰹のまち」である。かつては 150 ヶ所ものいで小屋がいたところにあり、枕崎市の生活の基盤となっていた。しかし近年では、生産量は増えているにもかかわらず、手の込んだ「本枯れ節」を生産している工場は、減少の一途を辿り、枕崎のいで小屋の数は、約 40 ヶ所にまで減少している。鰹節のまち、鹿児島県枕崎市。かつては家族単位でのいで小屋がまち全体に点在しており、いで小屋を中心としたまちの生活の構造が根付いていた。しかし工場の大型化・後継の枯渇などの問題に直面し、昔ながらの小さないで小屋の数は減少し雑に扱われていました。その中で昔ながらのいで小屋を起点に生活の場を共有することで枕崎の生活の構造を生きた形で更新していきます。

図 4 鰹節製造過程